

南奥駆道（行仙宿⇄持経宿）の巡視・交差登山

◇実施日…2020年4月5日（日） 晴

◇参加者…逆峰班 沖崎吉信、畑林清子、大江加予子、児嶋道夫、

山川治雄、岩本信行、野崎肇

順峰班 濱野兼吉、豊嶋寛、生熊千万子、中前偉、竹中

卓治、高階美根子、志岐敬、梶野照雄

15名

【逆峰班】

山行2日前の4月3日に単独で持経宿へ行って下見をした。その際林道の整備を行ったのでスムーズに走行、途中で車を降りることは無かった。40分少々で持経宿に到着。畑林さんから寄贈のあった温度計を玄関に取り付けた。また、村吉さんから「先日放送のグレートトラバースや2007年釈迦如来像大修理の奈良放送ニュース、1977年のNHK新日本紀行などをDVDに収め、持経宿の物置に入れたので、持ち帰り願いたい」と連絡が有ったので、DVDを回収。小屋内外の点検を済ませ、9時35分にスタートした。風が強くて寒い中、55分で平治宿に着く。冬の間撤去していたドラム缶や水槽をもとの位置に戻し、児嶋さんは今西桜の傾きを修整、小屋内の点検も行う。20分滞在し先に進むも、登山道に異常は全く無く倒木も無い。

ありがたいことだが、何もすることがなく、ただ歩くだけになった。出番がない山川さんはチェーンソーで少し傾いた道沿いの小径木

を4〜5ヶ所で切除する。



平治宿雨水槽再設置



転法輪岳



道標を追加

12時10分、俱利伽羅岳山頂に着き昼食とした。約20分遅れて逆峰班が到着、奥駆道に異常は無いとの報告を受けた。車のキーを交換して、12時50分行仙宿に向けて出発、午後は作業無しなので歩が進む。一時間で怒田ノ宿、午後3時に行仙宿に着いた。



斜木の切除



俱利伽羅岳到着



行仙岳に到着

怒田ノ宿あたりで梶野君から電話が何回も入るが応信出来ない。何かあったのかと心配したが、ゲートのキーの件だったのでほと

する。無線機の不調で持参していなかったことに反省する。

児嶋さんは赤ペンキのスプレー缶とテプラの標識、沖崎が幅広城テープを持参して要所々にマークを付けた。

逆峰班、順峰班共にトラブルは無く、4時過ぎ、ほぼ同時に役場に帰り着いた。

池原のスポーツ公園北側の崩土による国道通行止めは復旧までかなりの時間が掛かるとみられ、迂回路の交互通行はしばらく続くようだ。

(記：沖崎、写真：岩本)

行動タイム

持経宿 09：35→10：30 平治宿 10：50→12：10 俱利伽羅岳 ↓12：50
↓14：30 行仙岳 ↓行仙宿 15：10→16：10 下北山村役場

【順峰班】

下北山村役場に集合して沖崎代表より本日の行動指示。2班に分かれ行仙から持経、持経から行仙への交差登山。途中出会ったところで車の鍵を交換し、それぞれ目的地に到着後置いてある車に乗って役場に戻る。前代表故川島功氏の死亡事故が究明され、保険金を下りる事になったとの報告があった。

順峰組8名(豊嶋、濱野、生熊千、中前、高階、竹中、梶野、志岐)は2台の車に分乗し補給路登山口に向かう。

全員のザックをモノレールに載せ、梶野さんに運転をまかせ、各自出発。モノレールの終点で各人のザックを背負い行仙小屋に向けて登る。この付近では山桜の花も散って、タムシバの白い花がまだ

所々に残り、馬酔木の花が咲き誇っている。行仙小屋に到着すると玄関先の温度計は3度。おまけにいつもの通り強風が佐田辻を吹き抜け冷たい。早々に行者堂前で写真を撮り出発。



行仙岳山頂で



倒木処理が続く



中前、豊嶋さんはお互いの高度計で高度の確認をしているが、気圧の関係か、設定による差違なのか若干の違いがあるようだ。行仙宿から5分ほど登った所で梶野さんから、笠捨の眺めはここが一番だということで、写真に納める。

途中の「継の窟」に向かうルートには岡室さんの太いロープが垂れ下がっていて、時々「継の窟」に行かれる方がいるとのことだ。

尾根を吹き抜ける風は冷たいうえ、行仙岳への登りも結構きつい。山頂には三等三角点「大峯山」があり、第十九番摩「行仙岳」FM局の中継アンテナやNTTの中継基地は現在も機能しているのかどうか不明だが、建物はまだある。山頂からの眺めはよく、釈迦ヶ岳から中八人山を見渡せた。

行仙岳から「怒田宿」に下る道は、木製段差の支柱が霜柱で浮かされ倒壊。これから雨が多くなるのでぬかるんで滑らないように整備を早急に行う必要がある。「怒田宿」にはかつて近くに水場があったようだが現在は涸れている。



放置されていた倒木も処理

本日の参加者

平治宿に到着

「怒田宿」から「俱利伽羅岳」の間に杉、アケボノツツジ、梅の木6本が道を塞ぎ梶野さんがチェーンソーで処理。この間の倒木処理で時間を要したので、持経組より時間遅れ合流地点の「俱利伽羅岳」には12時30分の到着となった。

ここで昼食、食後「カフェ・コジマ」も開店し、それぞれお菓子やチョコレート差し入れて英気を養い、自動車のキーも交換して、それぞれの目的地、持経、行仙に向け出発した。

順峰組は、今回の最高峰「転法輪岳」を越えればあとは平治宿までは下るだけ、「転法輪岳」では休憩せず平治宿の小屋でゆっくり寛ぐこととして平治に下った。

平治宿では小屋に入りコーヒーで、お昼の残りお菓子やチョコレートで元気を取り戻し、中前さんの西行法師の生い立ちや武勇伝を聞き、聖としての功績や歌人としての知識しかなかったため改めて西行に興味をもった。



持経宿に到着

ゲートまで青年を乗せる

役場に帰着

最後「持経宿」を目指して出発。千年檜の手前頃から村吉さんの奥駆道の整備が素晴らしく随分歩きやすい。多くの人々の協力で、標識やテープも多くなりよく目立ち、安心して歩けるようになった。これで迷うことも少なくなるのだと確信する。

「持経宿」では村吉さんからの支柱を軽トラックに積み込み、それぞれ2台の車に分乗して下北山役場へ、池郷林道の途中で大阪の青年を拾いゲートまで乗せた。役場ではタイミング良くほぼ同時に合流。最後に沖崎代表より連休中の小屋番の協力要請と持経から前鬼の踏査の協力要請があり解散。

行動タイム

補給路登山口 09 : 05 → 09 : 45 行仙宿 10 : 00 → 10 : 30 行仙岳 → 12 :
30 俱利迦岳(昼食) 12 : 55 → 13 : 30 転法輪岳 → 13 : 50 平治宿 14 : 25
→ 15 : 15 持経宿 15 : 20 → 16 : 18 下北山村 役場

(記 ; 濱野、写真 ; 梶野、志岐)